

2018 Collection of plywood works

第5回全国合板1枚・作品コンペ報告書

2018 Collection of plywood works

第5回全国合板1枚・作品コンペ報告書

# 2018 Collection of plywood works

第5回全国合板1枚・作品コンペ報告書

公益社団法人 日本木材加工技術協会

日本合板工業組合連合会

公益財団法人 PHOENIX (木材・合板博物館)

日本合板商業組合

主催

# 2018 Collection of plywood works

---

## 第5回全国合板1枚・作品コンペ報告書

はじめに .....	2
実施要項 .....	3
応募者一覧 .....	6
入賞者一覧 .....	8
審査委員長講評・実行委員長総評 .....	9
作品紹介 .....	11
フォトグラフ .....	50
新聞・雑誌記事 .....	56
コンペ記録 .....	58
募集チラシ .....	62

# はじめに

第5回全国合板1枚・作品コンペ実行委員長  
埼玉大学教育学部教授

## 浅田 茂裕



第5回全国合板1枚・作品コンペが公益社団法人日本木材加工技術協会、日本合板工業組合連合会、公益財団法人PHOENIX(木材・合板博物館)、日本合板商業組合の4団体を主体として開催されました。本コンペの実行委員を代表して、ご挨拶申し上げます。

このコンペは5回を数えるに至り、今回初めて実行委員長として迎えましたが、たくさんのすばらしい作品を応募していただきました。これもひとえに、皆様方のご協力の賜物と感謝申し上げます。

このコンペは作品を出展していただいた皆様にはご承知おきかと思いますが、合板という、通常は下地材として用いられる材料を、さらに魅力のあるものとして活用する趣旨で行われています。特に、森林を活用していこうという時代に、合板という材料を見直して、その素晴らしさを引き出して使用することが非常に重要であると考えられます。

そうした中で、このコンペでは我々が全く思いつかないような、沢山のすばらしいアイデアを見せていただきました。審査委員、実行委員一同、非常に楽しみにしているコンペであります。

第1回は島根県で始まり、第3回から横浜で行われ、今回は埼玉で進めて参りましたが、特に高いレベルの作品が多かったと感じております。一つ一つの入賞作品をご覧いただくと、良さを実感していただけたらと思います。

これからは森林を活用する時代であり、持続可能性を維持しつつ生活することが求められます。法隆寺に代表されるように、木を合わせる技が日本では古くから受け継がれてきました。そうした材料を上手く活用する知恵を持ち、合板を活用してこれからの時代を創っていくことが大切であると思います。今後とも皆様のお知恵をお借りしながら、合板の可能性、あるいは木材の可能性を追求したいと考えております。

この大会を続けることができましたのは、林野庁をはじめとする多くの協賛団体、後援団体の皆様のおかげであると、感謝しております。本当にありがとうございます。このコンペを継続するにあたり、今後とも皆様のご協力を賜れますよう、お願い申し上げます。

# 第5回全国合板1枚・作品コンペ 実施要項

## 1. 「合板1枚・作品コンペ」の開催趣旨

木質材料、木質建材の代表格「合板」が我が国に誕生して、1世紀余りになります。現在では、国内の多くの建築物には合板が使われていないものは無いといっても過言ではありません。そして、多くの合板は、住宅の構造材料のみならず内装材、家具材料として住まいの国民生活をしっかりと大きく支えてきています。

しかし、こんなに身近に大量に使用され、住宅を支える重要な建築材料の合板であるにも関わらず、その多くは壁の中、屋根裏、床下などで裏方として世の表舞台になかなか登場することがありません。

そこで、この合板1枚・作品コンペでは、合板の魅力を目に見える形で、全面的に活かした建築材料、家具材料、造形材料、ものづくり工作材料、美術・工芸材料、生活材料、教育文化材料など広範囲な分野で、一般生活者の皆様方からお知恵をいただき、よりよい合板の魅力を発掘してもらおうとするのが趣旨です。

また、2012年に日本合板工業組合連合会及び公益財団法人PHOENIX(木材・合板博物館)によって、日本で最初に合板製造が開始された11月3日が「合板の日」として制定されました。この「合板の日」制定の記念行事の重要な一つとして、合板の国民生活への必要性や重要性。さらには木質材料「合板」としての魅力を後世に引き継ぐことを目的に本コンペを実施することといたしました。

今日、「合板」は「森林・林業基本計画」の目標達成や「東日本大震災の復興」に大きく貢献しています。そして、大気中のCO<sub>2</sub>の合板への固定による地球温暖化防止に貢献し、日本の森林・林業と山村の振興に大きな期待が寄せられているところです。

さらには、合板素材の木材は、地球と人類に優しい「持続可能で再生可能な循環天然資源」でできております。

この地球環境に良い合板の、強さ、美しさ、優しさ、おもしろさ、ユニークさ、繊細さなど多面的な合板の魅力を多くの国民の皆さんによって、引き出していただきたいのです。

## 2. 作品募集部門

次の2部門で募集します。

①一般の部(高校生以上)

②ジュニアの部(小学生・中学生)

高校生、高専生、大学生、特別支援学校生などはそれぞれの教育課程の特性を配慮して審査します。

## 3. 審査基準

本コンペの趣旨を踏まえ、以下の項目を考慮して審査します。

- ①合板の良さ、美しさ、おもしろさなどが活かされているもの
- ②合板1枚を有効に利用しているもの
- ③合板の利用について普及効果があるもの
- ④合板の新たな用途開拓を見出したもの
- ⑤合板の強度特性、物理的特性を活かしたもの

## 4. 応募条件

上記の「審査基準」や下記の「作品規格」に従って、制作したオリジナルで未発表のものであること。著作権、工業所有権を侵害すると判断されたものは除外されます。応募は個人又はグループのいずれでも可能です。

### 「作品規格」

- ①合板1枚とは、板幅90cm×板の長さ180cmの3×6(サブロク)サイズ1枚の面積のことで。板厚は自由です。使用合板は1枚以下でも結構です。ただし、各種の板厚の合板を組み合わせて使用する場合は、合計の面積が90cm×180cm=16,200cm<sup>2</sup>になるように使用してください。
- ②家具金具(丁番、取手、キャッチャーなど)、補強金具、接合金具などは自由に使用できます。
- ③作品に色を塗ったり、絵を描いたり、彫刻、布貼りなどの表面装飾を行うこともできます。
- ④特殊な合板を製造して使用する場合は、特殊な規格の合板を使用する場合は事務局にお問い合わせください。

### 《留意事項》

すべての応募作品の権利(著作権など)は制作者に帰属します。しかし、入賞、出展作品の展示及び作品集などの印刷物への使用上の権利は主催者に帰属します。作品の返却は送料など自己負担で行っていただきます。

上位入賞作品については、主催団体および関係団体による展示場やイベント会場などでの作品紹介を目的として、寄贈をお願いする場合があります。

## 5. 応募方法

応募は2段階に分けて行います。最初1次応募を書類でしていただき、その書類審査を行います。次に、1次応募で選ばれた作品について、2次応募を実物作品でしていただき、その実物作品の審査を行います。

**応募期間**  
1次応募期間：  
平成30年8月20日(月)～平成30年9月7日(金)必着  
(作品の書類のみをお送りください)

2次応募期間：  
平成30年9月25日(火)～平成30年10月5日(金)必着  
(作品の実物をお送りください)

**応募先及び方法**  
ホームページ(<http://gouhancompe.jp/>)上から1次応募用紙をダウンロードし、応募用紙に、作品の設計図、作品の正面、側面、平面の3方向から撮影した写真、スケッチ(フリーハンドでも可)などで作品の寸法、構造、機能や特徴を記入したものを郵送にて下記の事務局まで締め切り日必着で送付してください。  
1次審査合格者の方は、2次審査を作品実物で行います。各自でダンボール箱などで梱包し、所定の用紙(1次審査合格者に合格通知とともに送付します)を貼り付けて、送料応募者負担で、締め切り日必着で事務局まで送付してください。また、お送りした宅急便伝票には作品の返送先の宛名、氏名などを記入して、作品と同時に送りください。

**応募・送付先、事務局**  
〒330-8570  
さいたま市桜区下大久保 255  
埼玉大学教育学部生活創造講座技術分野  
浅田茂裕(あさだ しげひろ)  
電話・FAX 048-858-3229  
E-mail [go1compe@gmail.com](mailto:go1compe@gmail.com)

## 6. 審査結果発表

1次審査結果発表：平成30年9月14日(金)  
ホームページ(<http://gouhancompe.jp/>)上で発表します。  
また、1次審査合格者には、郵送でお知らせしますので、作品実物を2次応募期間中に事務局まで送ってください。  
2次審査結果発表：平成30年10月26日(金)10時から  
ホームページ(<http://gouhancompe.jp/>)上で発表します。

## 7. 表彰

**最優秀賞(林野庁長官賞：一般の部)**  
副賞：賞金20万円 1件

**最優秀賞(林野庁長官賞：ジュニアの部)**  
副賞：賞金8万円(図書カード) 1件

**公益社団法人 日本木材加工技術協会会長賞**  
副賞：賞金7万円 1件

**日本合板工業組合連合会会長賞**  
副賞：賞金7万円 1件

**公益財団法人PHOENIX木材・合板博物館理事長賞**  
副賞：賞金7万円 1件

**「合板1枚・作品コンペ発祥の地 島根」賞**  
副賞：賞金7万円 1件  
(アイデア、奇抜さ、新規性、おもしろさに優れた作品へ贈る賞)

**「倉澤 實 デザイン」賞**  
副賞：賞金5万円 1件  
(美術彫刻、造形に特に優れた作品へ贈る賞)

**「山下晃功 木育」賞(ジュニアの部)**  
副賞：賞金3万円(図書カード) 2件  
(児童・生徒が合板の特性を活かし、若人らしく工夫・創造し、顕著に努力した力作に贈る賞。小学生、中学生から各1名)

**優秀賞**  
副賞：賞金2万円 1件

**奨励賞**  
副賞：記念品 数件  
(小学生、中学生、高校生、高専生、大学生などの若人を対象に、今後の向上に期待できる作品に贈る賞。それぞれ数名)

**努力賞**  
副賞：記念品 数件

**ブライグッド賞** 数件  
(すべての作品のうち、商品化の可能性が高く、合板の新たな用途開拓に資するもの。選ばれた作品については、事務局が製品化のためのマッチング等をお手伝いします。)

※高校生(高専3年生以下を含む)以下が受賞した場合、現金ではなく同額の図書カードを贈呈します。小学生、中学生、高校生、高専生、大学生、特別支援学校生などはそれぞれの教育課程の特性を配慮して審査します。

## 8. 表彰式

表彰式は木材・合板博物館(東京・新木場)において平成30年12月2日(日)14時から行います。

## 9. 入賞作品展示

入賞作品を広く紹介させていただくために、表彰式と並行して入賞作品展示会を開催し、下記の期間に開催します。  
日時：平成30年11月3日(土)～平成30年12月20日(木)  
場所：木材・合板博物館(東京・新木場)

## 10. 受賞作品の紹介

主催団体、後援団体、協賛団体が責任を持つ誌(紙)面媒体、ホームページ(<http://gouhancompe.jp/>)にて発表します。

## 11. 主催団体

公益社団法人 日本木材加工技術協会  
日本合板工業組合連合会  
公益財団法人 PHOENIX(木材・合板博物館)  
日本合板商業組合

## 12. 協賛団体

一般財団法人 田部謝恩財団  
合成樹脂工業協会 接着剤部会  
一般社団法人 日本木工機械工業会  
公益財団法人 日本合板検査会  
国立大学法人 埼玉大学  
東京合板工業組合  
木育全国生産者協議会  
学研パブリッシング刊・ドゥーバ!編集部  
株式会社日刊木材新聞社  
海青社 他

## 13. 後援団体

林野庁  
埼玉県教育委員会  
さいたま市教育委員会  
一般社団法人 日本木材学会  
一般社団法人 日本産業技術教育学会木材加工分科会  
日本木材青壮年団体連合会  
全日本中学校技術・家庭科研究会  
公益社団法人 全国中学校産業教育教材振興協会  
一般社団法人 日本DIY協会  
全国高等学校建築教育連絡協議会  
公益社団法人 全国工業高等学校長協会  
一般社団法人 全国高等専門学校連合会  
開隆堂出版株式会社  
東京書籍株式会社  
株式会社テクノ教育  
埼玉新聞社 他

## 14. 合板1枚・作品コンペ実行委員会

実行委員長  
埼玉大学教授 浅田茂裕

副実行委員長  
島根大学名誉教授 山下晃功  
木材・合板博物館副館長 平川泰彦  
日本合板工業組合連合会専務理事 川喜多進

実行委員  
東京学芸大学准教授(表彰式担当) 大谷 忠  
横浜国立大学准教授(審査、庶務担当) 小林大介  
東京大学准教授(審査、応募作品管理担当) 青木謙治  
上越教育大学准教授(報告書、表彰式担当) 東原貴志  
関東学院中学高等学校教諭(WEB、広報担当) 寺島 徹  
木材青壮年団体連合会木育推進委員長(広報担当) 甲村耕三

静岡大学助教(記録、報告書担当) 田中 孝  
木材・合板博物館職員(会場、入賞作品管理担当) 赤石和義  
ものづくり大学准教授(表彰式、広報担当) 佐々木昌孝  
日本木材加工技術協会参与(渉外担当) 海老原徹

実行委員(主催団体)  
公益社団法人 日本木材加工技術協会会長 服部順昭  
日本合板工業組合連合会会長 井上篤博  
公益財団法人 PHOENIX理事長 吉田 繁  
日本合板商業組合理事長 足立建一郎

実行委員(顧問)  
ものづくり大学名誉教授 赤松 明

## 15. 合板1枚・作品コンペ審査委員会 (主に第2次審査を担当)

審査委員長  
東京大学名誉教授 安藤直人※

副審査委員長  
島根大学総合理工学部准教授 吉延匡弘

審査委員  
一般財団法人 田部謝恩財団理事長 又賀航一  
(「合板1枚・作品コンペ発祥の地 島根」賞担当)  
公益社団法人 日本木材加工技術協会合板部会長  
森林総合研究所複合材料研究領域長 塔村真一郎  
公益財団法人 日本合板検査会理事長 河野元信  
東京おもちゃ美術館館長 多田千尋  
(「山下晃功 木育」賞担当)  
一般社団法人 日本家具産業振興会会長 加藤知成  
一般社団法人 日本DIY協会専務理事 細矢佑二  
公益社団法人 全国工業高等学校長協会  
「全国インテリア教育研究会」会長 松本光正  
公益財団法人 PHOENIX(木材・合板博物館) プロデューサー 長谷川麻紀  
女性木工指導者 番匠智香子  
「一枚の合板から」展主宰、建築家 田中敏博  
「ドゥーバ!」編集長 設楽 敦  
埼玉大学教育学部准教授 石上城行  
(「倉澤 實 デザイン」賞担当)  
ものづくり大学准教授 佐々木昌孝※

※第1次審査も担当

## 16. 合板1枚・作品コンペ事務局

埼玉大学教育学部生活創造講座技術分野 浅田茂裕  
特定非営利活動法人 木づかい子育てネットワーク 多田知子

# 第一次審査通過者

(敬称略、順不同)

作品名	応募者名	都道府県名・所属
アタッシュケース	中西 要成	北海道
Hexagon stool	岩本 一也	北海道
たびまくら〜ミニマルな生活の新しい家具〜	村上 良太	宮城県
Increase Chair	青沼 朋輝	宮城県
合板 DE サッカー	安藤 華月	宮城県
木製の靴	斎藤 陸玖	宮城県
小物入れ付き写真立て	佐藤 聖悟	宮城県
WOODEN PACHINKO	千葉 康祐	宮城県
鯨鍋牛帯切断機	徳能 竜生	宮城県
Recycle rain (リサイクルレイン)	門間 海登	宮城県
こんなの欲しかっ棚 (^^♪)	山内 干城	宮城県
組み立て式スツール	安達 貴之	茨城県
合板土留め「植える君」	渡辺 名月	茨城県
Hexagonal stool 六角形スツール 独身者のための家具 JUST UNIT 45×45×45 Saboten 園児のための椅子 Vege-table 楽しいベジタリアンのためのテーブルと茄子(椅子)	菅谷 健夫 (4作品)	埼玉県
ウォイターベッド	岩崎 翼	埼玉県
シンプルラック	斎藤 佳久	埼玉県
耐久机 (テーブル)	森川 直哉	埼玉県
Connected Chair	安中 優理	埼玉県
膝が痛い母のための椅子	長南あずさ	埼玉県
散歩の友	前田 隼汰	千葉県
リゾートチェア	弾野原 浩生	東京都
合板きえすぎくん	吉田 道生	東京都
合板スプリング機構	矢島 英勝	東京都
合板フルレンジスピーカー D	岩佐 行人	東京都
面と層	染谷 玲生	東京都
みんなでつくろう・すべろう・かたづけよう!! 〜幼児用組み立て 滑り台〜	柳原 みず季 田中 若葉 遠藤 遥	東京都
合板スーツケース	森岡 希	東京都
Porta	伊藤 舞	東京都
装身具と飾り棚	押野 伊玖巳	東京都
下駄	高橋 こころ	東京都
荷 mo ツリー	高橋 まり	東京都

作品名	応募者名	都道府県名・所属
魚の解剖キット	村井 里帆	東京都
きらめ木	山本 さやか	東京都
江戸型山車	西澤 直斗	東京都
(作品名不詳)	古川 泰司	東京都
possibility	森谷 聡	神奈川県
おでかけ 2 in box	椎野 加菜	神奈川県
C&C なイス (conical and colorful chair)	河合 慈英	神奈川県
再生 木漏れ美	長谷川 聡 (2作品)	神奈川県
「アンカー」	上山 大輝	神奈川県
Share Chair	青木 奏志	神奈川県
つむぎいす	杉本 静瑠	神奈川県
Everyone make shelf	大塚 美瑠稀	山梨県
Play Picnics with Plywood!!	高木 博之	富山県
おもちゃ箱〜cats&dogs〜	糸のこキヤット	愛知県
ベニッキオ	岩本 玲奈	愛知県
台風形ソファー	曾根 誠太郎	三重県
完全なる取前	北山 秀明	和歌山県
パズル椅子	和歌山工業高校建築科 1 年甲組	和歌山県
木層のイス	鳥山 瑛慈	島根県
Special One	小川 真希	島根県
収納付き椅子	石川 晴輝	島根県
HANA と寛ぎ	蒲 彩恵里	島根県
大好木ベンチ	明石 隼人	島根県
折り畳み椅子	山下 旺雅	香川県
錦帯橋!?	久保 巡平	香川県
合板自転車 (フレーム)	相多 脩	福岡県
軟帯リュック	山口 泰成	福岡県
EGG STAND	後藤 蓮	福岡県
富士山の合板オブジェ	平辻 皇哉	長崎県
不思議な形のランプ	山田 亜斗夢	長崎県
海の上の木	堺 美月	熊本県
キリンシート	李 ジャスミン	沖縄県
パコ	岸本 大河	沖縄県

# 各賞受賞者

賞名	作品名	応募者名	年齢	都道府県名
最優秀賞(一般の部)	Play Picnics with Plywood!!	高木 博之	38	富山県
最優秀賞(ジュニアの部)、 山下晃功 木育賞	C&C なイス (conical and colorful chair)	河合 慈英	14	神奈川県
公益社団法人 日本木材加工技術協会会長賞	江戸型山車	西澤 直斗	18	東京都
日本合板工業組合連合会 会長賞	パコ	岸本 大河	21	沖縄県
公益財団法人 PHOENIX 木材・合板博物館理事長賞	つむぎいす	杉本 静瑠	22	神奈川県
合板1枚・作品コンペ 発祥の地 島根賞	膝が痛い母のための椅子	長南あずさ	31	埼玉県
倉澤賞 デザイン賞	再生	長谷川 聡	35	神奈川県
優秀賞	おもちゃ箱~cats&dogs~	糸のこキャット	52	愛知県
ブライグッド賞	キリンシート	李 ジャスミン	21	沖縄県
奨励賞	折り畳み椅子	山下 旺雅	16	香川県
奨励賞	パズル椅子	和歌山工業高校 建築科1年甲組	15	和歌山県
奨励賞	荷 mo ツリー	高橋 まり	17	東京都
奨励賞	大好木ベンチ	明石 隼人	15	島根県
奨励賞	海の上の木	堺 美月	8	熊本県
努力賞	みんなでつくるう・すべろう・かたづけよう!! ~幼児用組み立て 滑り台~	柳原 みず季 田中 若葉 遠藤 遥	21	東京都
努力賞	面と層	染谷 玲生	26	東京都
努力賞	ベニッキオ	岩本 玲奈	31	愛知県
努力賞	軟帯リュック	山口 泰成	16	福岡県
努力賞	Share Chair	青木 奏志	24	神奈川県

## 審査委員長講評

東京大学名誉教授  
安藤 直人

受賞された皆様、本当におめでとうございます。この合板1枚・作品コンペは1枚の板を使う制限があり、使い切った方、いや余ったけれどもアイデアで勝負した方、いろいろございました。合板の厚さも2.5mmから24mm、28mmまでさまざまあり、それを皆さんがそれぞれ選択し、アイデア、設計、加工技術、そして結局は忍耐、努力の積み重ねで製作されました。制作の過程で合板に触っていただき、役に立つ、役に立たないといったものを超越した造形を提案されました。

この審査は15名の審査委員で、全作品が展示された場所で行いました。評価の高いものや低いものなど分かれるものですが、今回の審査の結果はあまり議論がなく、素晴らしい作品を制作された皆さんのおかげで、審査委員の総意で決まりました。

入賞作品は、選ばれた合板やテクニックがそれぞれ異なっていました。一つのアイデアから実際にものづくりできることは素晴らしいことです。今回は5回目ですが、これからますます発展することを皆さんへの期待を込めて、申し上げます。

デザイン性が高いもの、加工の程度やスキルなど、作品を評価する視点はさまざまですが、審査委員が選んだ作品がこの表彰の場に展示されています。

学校の課題として制作したものもありますが、教育課程の中で取り入れる先生が増えてほしいと願います。また、DIYの中で、合板の可能性を引き出してほしいです。

入賞作品は非常に僅差で、結果として各賞の授与となりましたが、どれも本当に努力されている作品であることがわかりました。皆さんには、今後とも作品づくりを行っていただきたいし、我々は発信のお手伝いをしたいと思います。



第5回全国合板1枚・作品コンペ

# 実行委員長総評

埼玉大学教授

浅田 茂裕

第5回全国合板1枚・作品コンペは、小学生、中学生から一般の方まで多種多様な応募作品により開催されました。北海道から沖縄県まで全国各地の64名から68作品の応募があり、特に優れた19作品を表彰いたしました。改めまして、ご応募いただいた方々に御礼申し上げます。

最優秀賞(一般の部)の「Play Picnics with Plywood!!」は、厚さの異なる合板2種類を用いてテーブルとスツールを制作していました。合板のしなやかさと丈夫さを最大限に引き出した作品で、審査委員から高い評価を得ていました。

第4回大会から小中学生からの多くの作品応募を期待して、「ジュニアの部」を復活させ、そのカテゴリーの最優秀賞(林野庁長官賞)も設定することとしました。今回の最優秀賞(ジュニアの部)、山下晃功 木育賞受賞の「C&Cなイス<conical and colorful chair>」は合板の断面をうまく生かして円錐形のイスを制作していました。合板の魅力を最大限に引き出した作品で、審査委員の満場一致で選出されました。前回大会と比較して、小中学生の作品は増えませんでした。今後の全国合板1枚・作品コンペ開催に向けて、更に小中学生の皆さんが応募しやすい環境を構築したいと考えております。

今回の特筆すべき点として、高校生から26点にのぼる応募作品が寄せられたことが挙げられます。個人で、あるいはクラスで制作した作品はバラエティに富んでおり、合板の可能性を追求する姿勢がみられました。

今後も全国合板1枚・作品コンペにおいて、新たな合板の魅力を多くの方々に引き出していきたいと願っております。



# 2018 Collection of plywood works

第5回全国合板1枚・作品コンペの  
入賞19作品を紹介します

# Play Picnics with Plywood!!

高木 博之

- 「持ち歩ける」ほどコンパクト
- シンプルでミニマムな構造設計

合板1枚 (正確には2種類) で持ち運びが簡単なテーブルとスツール2脚を作成しました。  
テーブル/スツールの天板 (座面) には21mm厚のシナ共芯合板を、その脚には3mm厚のシナ曲げ合板を使用しました。

テーブル/スツールどちらも天板 (座面) の裏面には円形のミゾが入っていて、脚となる曲げベニアをそのミゾに入れる事によって強度と安定性を確保しました。

脚は僅か3mmのベニアですが、曲げることによって見た目よりもはるかに高い強度を得ることが出来ます。

使わないときは、天板 (座面) と脚を取り外してコンパクトに収納することが可能です。



## 審査委員からのコメント

シャープで大らかで、美しい椅子とテーブル合板の特性を良く知っている作品です。すぐに商品化できそうです。

2種類の合板を使い天板、座面には厚いもの、脚部には薄物を丸めて強度を確保するデザインは秀逸である。面材としての強度を期待した使い方、曲げて形状を与えることで人が腰かけても耐える構造を提案している。形はシンプルで美しく、組み立てができる扱いやすさも工夫がある。

## C&Cなイス〈conical and colorful chair〉

河合 慈英

- 使用した合板の種類と厚さ：18mmの合板
- 制作日数：およそ2週間

学校で今回のコンペに参加してみないかと技術の先生に声をかけていただき、合板という言葉に興味をわき参加を決めました。

この作品のコンセプトは不思議さと実用性です。形はキューバの伝統的な楽器のコンガをモチーフにしています。理由は小学生のころコンガに座ってみたいと思ったからです。合板の強さを活かしてパーツはできるだけ細く設計し、不安定そうに見えるconical〈円錐形〉な形でも脚と本体が面と面で接地し円錐の頂点が地面と接することで見た目からは想像できない安定感があります。またパーツを細くすることで全体重量も抑えています。(それでも結構重いです)

本体の中には七色のcolorfulなLEDが入っていて、一段に二個開けたスリットから光がこぼれて間接照明としても使えます。本体を脚から外し、逆さに乗せると木の形をモチーフにしたインテリアライトとしても楽しめます。

すべての部品の接合には釘、ビスを一切使わず、力がかかる脚の部分は通しほぞで止めてくさびを打ちました。また、LEDの交換ができるように座面はピンとスリットで外せるように作りました。合板の積層面を美しく見せるためナチュラルな仕上げとなるよう、オイルフィニッシュにしました。厚い18mmの合板から、ほとんどが曲線のパーツを糸のこで切り出すのに大変苦労しました。制作期間は、デザインから制作までおよそ2週間かかりました。



### 審査委員からのコメント

輪状にカットした合板を積み重ね円錐のフォルムの座面が、ツリーのような照明に変身するユニークなアイデア、光色の変わる電球のチョイス・弱冠14才という製作者のセンスに合板木工の未来を感じました。木ダボで固定する座面のギミックなど細部の仕掛けもお見事!

イスでもありながら、照明器具にもなる。まずはそのまったくかけ離れた2つのものを結びつけた発想が面白い。そしてひとつめの「C」=円錐 (conical)、のデザインを取り入れたがゆえ、合板の積層の美しさが強調され、見た目もオシャレである。ふたつめの「C」=カラフル (colorful) は、中に取り付けられた照明の色の変化によってもたらされる。隙間から漏れる光は、木漏れ日のようだ。この作品は中学生によってつくられた。将来性も含め、今後に大いに期待ができる作品として、私も含めた多くの審査委員の注目を浴びた。

## 江戸型山車

西澤 直斗

- 制作日数：およそ30日
- 制作費用：およそ800円

この度、第5回全国合板1枚・作品コンペにおいて、「江戸型山車」を製作するにあたり、各地の山車の写真や実物を見て、各部材一つ一つを丁寧且つこだわって作り上げました。

そもそも江戸型山車とは、古く江戸の祭礼を中心に引き回されていた山車で、現在では関東大震災や戦災により消滅し、都内でも数少ない山車が保存されています。

今回は、そんな貴重な山車の外部はもちろん、内部の構造や仕組みも再現し、本物の山車と同様に、一段上下可変式からくりを取り入れ、四方の神である四神が彫られた台が上下にせり出す作りになりました。また、台輪という部分では、合板の特徴である美しい断面を最大限に生かし、山車前部にあたる屋根は、合板でしか出来ない加工を用いて、華麗な勾配を出すなどし、この一台の山車の中に、数々の工夫と、江戸伝統工芸の素晴らしさを詰め込んだ作品になりました。

この作品を見ていただき、現在では貴重な江戸型山車の凄さ、華麗さ、素晴らしさなどを見て頂いたらうれしいです。



### 審査委員からのコメント

合板の使い方がとても斬新です。からくりで朱雀等々バーニングされた絵が出てくるのも面白くタイヤ等にも1つ1つの細やかな努力が見られます。

## パコ

岸本 大河

- 制作期間：1週間
- 制作費用：13,500円

便利で楽しいツールをコンセプトに、元は1つの状態から、なるべくたくさんの人が座れるようなモノを作りたいと思い、合板一枚の中でどこまで出来るか試行錯誤の結果、4つのツールを1つのかたちにまとめることが出来ました。

普段は一人掛けの椅子として「一個」の状態で使用します。ですが、来客時には簡単に「最大4人分のツールになる」金具などを使わないロックダウンの作品です。1つが4つに、4つが1つになる瞬間は気持ちよく、1つの立方体のような箱形のツールから4つのツールが現れるおもしろさから、会話のきっかけにもなればいいなと思います。

普段は一人暮らしで、お盆などの時に多くの人を訪れるおばあちゃんの家で置くことを想定し、4つのツールのうち2つは立ち上がる際の手すりを付けています。

接着はしておらず、留め具も使用していないので、簡単にバラして持ち運ぶことができ、手すりはその際には取っ手の役割も果たします。

合板一枚で最大限人に優しく寄り添える作品を目指して制作しました。



### 審査委員からのコメント

ボックス型のツールが2つのデザインのツール4脚に分解できるギミックは、子供はもちろん大人もワクワクすること間違いなし。クギやビスを使わず、継ぎ手パズルのように各パーツを組み立てられるのも楽しい。まさに「合板木工」の作品として、ふさわしいと感じました。

そのデザインは、面材利用としての合板の力強さが表現されるとともに、要所には曲線を取り入れることによって優しさも感じさせるものになっています。作品の製作も非常に丁寧に行われており、スムーズに展開～組み合わせや分解～組み立てができ、隙間も非常に少ない仕上がりとなっています。

## つむぎいす

杉本 静瑠

- 使用した合板の種類と厚さ：シナ合板
- 制作日数：およそ60日
- 制作費用：およそ10,000円

四角をつむぐ 人をもつむぐ

つむぎいすを紡げば  
一人で座ったり、大勢で並んで座ったり  
人数を限らせない椅子です

椅子に座らなくても  
椅子本体が模様として景色に馴染みます

隙間に本や雑誌を置くことができたり  
ペットが隙間に入り込んでまったりしたり

何個でも繋げることができて  
使わない時は四角を積立てて棚へと変えることができます

四角は同じ角度に切れ込みを入れているため  
上下逆さまにしても同じ形になります

組木を利用し、板に切れ込みを入れ  
四角の枠をはめ込んでいます



### 審査委員からのコメント

シンプルな四角3つの組み合わせですが、角度のついた切り込みを入れた組み方によって、いろいろな可能性を連想させてくれました。

椅子としては一人で座るよりも、横に他の人を呼び寄せたくなるような、人と人とを結ぶ(つむぐ)作用を感じさせる作品であり、またシェルフとしては思い出の品や本などを自由に並べることができ、使い手の時の流れを繋げる(つむぐ)ものになっています。さらに、この作品は縦にも横にも使用できることに加えて、複数個重ねたり並べたりすることが出来るように製作されており、使用法やレイアウト法の広がりを感じさせることも評価されました。

## 膝が痛い母のための椅子

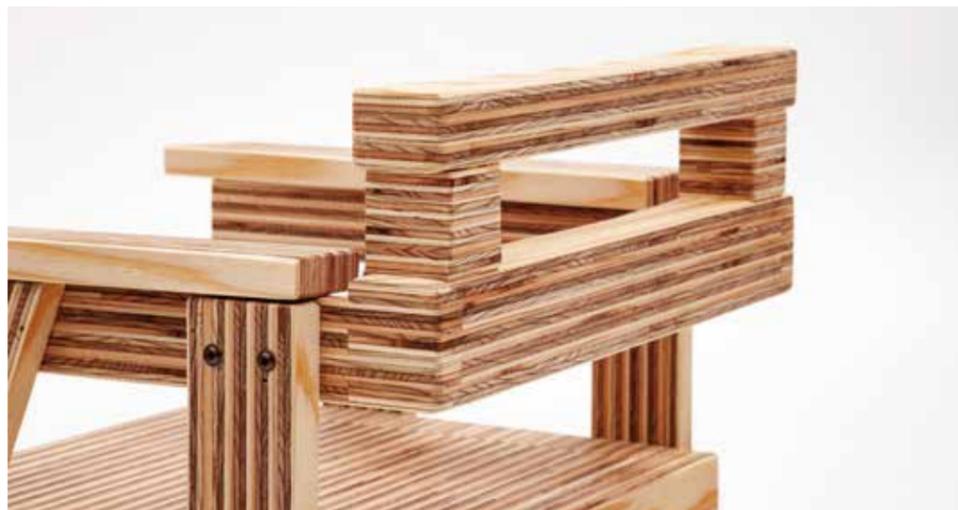
長南 あずさ

- 使用した合板の種類と厚さ：針葉樹合板12mm
- 製作日数：1日
- 製作費用：約2,000円（合板、接着剤、紙やすり）

病気を患ってから膝がうまく曲げられない母が、和室の座卓でも膝のことを気にせずにご飯を食べたり、洗濯物が畳めたりできるように作った椅子です。

製作にあたっては、合板の積層模様を生かすことを第一に考えました。次に、甥が遊んでいた積み木をヒントに、同型のパーツを接着剤でつなぎ合わせることを思いつきました。パーツ設計は積み木の「基尺」の考え方を参考に、幅の基尺を25mmとその2倍の50mmの2種類に決め、丸鋸盤でカットしました。カットしたパーツは木工用接着剤で一つずつ丁寧に張り付け、脚、背もたれ、ひじ掛けなどの部材に加工し、それを組み合わせました。仕上げはオイルフィニッシュを行っており、積層模様も美しく、肌触りもよく仕上げる事ができたと満足しています。合板は表面の接着力が強いので、基尺や合板の厚みを変えればいろいろな作品が複雑な加工、道具なしでも製作できるのではないかと思います。

合板の魅力を再発見できたこと、そして何より、母の悩みが解決できる椅子が出来上がりとても喜んでもらったことが嬉しく思います。このような機会に出会えたことに感謝しています。



### 審査委員からのコメント

12mm合板を小さな部材だけにしたことがとてもいい考えだと思いました。合板の特質を良く知り表現しています。作品名も作品の一部です。

スギ心材の赤みと合板表裏板の白色のヒノキによる紅白の合板積層面色コントラストが美しい。また、3点の規格材だけでダボ、色木ネジを使った組み立てがシンプルです。この単純にして新しい工法が魅力的です。

## 再生

長谷川 聡

積層によってできている合板の構造の面白さを全面に生かした作品を作る事を考えました。凹凸により生み出される縞模様を美しく見せられる形としてミルククラウンを使用。合板として再び命を与えられた木材を、再び合板の魅力を加えて加工して蘇らせるという意味の「再生」と、一瞬の動きを捉えた形が再び動き出そうとする意味の「再生」をかけてこの作品名としました。そのままでは動きのない合板を、動きを与えていかに魅力的に見せることができるかに挑戦し、厚みの変化も工夫し、磨き上げた作品です。



### 審査委員からのコメント

ミルククラウンをモチーフとしたデザインは、単純に物理現象によって生じる美しさの再現にとどまることなく、有機的な凹凸のリズムと虚と実の構成により優れた造形表現として結実している。また、異なる木材を積層して整形する合板の特徴が、作品の表面に現れる景色として生かされていて、木と人が協働して創り出す新たな自然の在り方を想起させる可能性を秘めている。

合板積層面の曲線縞模様と木材の色の濃淡コントラスト。とても見事な造形美と、水滴落下や火山噴火状の躍動感が美しいです。

## おもちゃ箱～cats&dogs～

糸のこキヤット

- 制作日数：およそ60日
- 制作費用：およそ4,000円

誰もが楽しめるおもちゃを制作しようと思い、今回の作品を作りました。

左のハンドルを回すと左の犬(猫)が走り、右のハンドルを回すと右の犬(猫)が歩きます。動きの違いをよく見て下さい。

引き出しの中には、ガラガラ、笛、コロコロおもちゃ、コロコロおもちゃ用滑り台、歯車、パズルが入っています。

ガラガラは目がなく、お絵かきができるようになったら自分で描いてください。猫の笛はピーピーと、犬の笛はワンワンと鳴ります。

コロコロおもちゃはお尻をひょこひょこさせて走ります。

パズルは簡単なものと難しいものの2種類ずつあります。

歯車は回して遊ぶだけでなく、外して本体に付けて左右のハンドルをつなぐと、左右の犬(猫)が同時に動くようになります。

赤ちゃんから大人まで遊べる究極のおもちゃ箱です。

これからも遊んだ人、見た人が笑顔になれるような作品を作っていきたいと思います。



### 審査委員からのコメント

まずは作品のクオリティが高く、見た目のデザイン性も素晴らしい。またおもちゃの機能性の点からみても、優れている。具体的にはまずは「動き」。最上段のからくりで動く猫と犬、あるいは歯車遊びがあり、子どもたちはその動きを楽しむことができる。次に「音」。赤ちゃんにはイヌやネコをかたどったラトルが優しい音を奏でる。そしてネコ笛・イヌ笛はちょっと意外な音が出る。中段の「パズル」は、ごっこ遊びの道具としても使うことが可能。つまり、様々な年齢層の子どもたちにとって、それぞれの発達段階に応じた様々な遊び方が展開できるという点で、「グッド・トイ」(よいおもちゃ)といえるものである。

# キリンシート

李 ジャスミン

- 制作日数：およそ14日
- 制作費用：およそ5,000円

学校の教室で荷物を収納でき、かつ休息もとれる長椅子。  
ネーミングは、上着をかける部分がキリンのように見えることから。  
制作のきっかけは、自身の机を広く活用するために、荷物の収納が欲しかったため。  
自身の席の後ろに置き、使用するのは主に平日の午後。  
ハンガーの形をした部分には上着をかけられ、その上の突起には帽子をかけられる。  
背もたれの裏には傘を立てられるくぼみがある。  
休憩したいときには足を伸ばせて座ることもできる。  
また、可動の小さな机を設置すると、読書もしやすい。  
さらに、ベンチのように2、3名が座ることもできる。  
教室に置くため、後ろの席の人の邪魔にならない高さになるよう注意した。  
サブロク板一枚をほとんど無駄なく使い、「キリンシート」ひとつが制作できる。  
また、この家具は複数のパーツを組むことで自立しており、金具や接着剤は使っていない。  
実際に使用してみて気に入っているところは、可動の机がなめらかに前後に動くところ。



## 審査委員からのコメント

単純な構成でありながら、日常の良くある風景を切り出して、たいへん心地良い場面を作っている。デザインもシンプルで、見た人たちに豊かな気持ちを思い出させる。1枚の合板からとても素敵なデザインを行っている。僕はとても好きです。

## 折り畳み椅子

山下 旺雅

合板を使って、折り畳むと板状になる椅子。  
コンパクトで、持ち運びが容易で、ひらくのが簡単。しかも丈夫で安心感のある椅子を作れたかった。

### 〈使用方法〉

椅子の裏のわずかなくぼみ（葉っぱのシール）を親指で押せばわずかな力で開くことができる。  
閉じる時には、座面の左右両端を持ち上げ、たたむことができる。



### 審査委員からのコメント

優れた折りたたみ機能、持ち運べる軽量さなど、機能性に富むすぐれたデザインとして高く評価されました。合板の持つ強度異方性の小ささが活かされており、商品化も十分可能であると思いました。

## 奨励賞

# パズル椅子

和歌山工業高校 建築科1年甲組

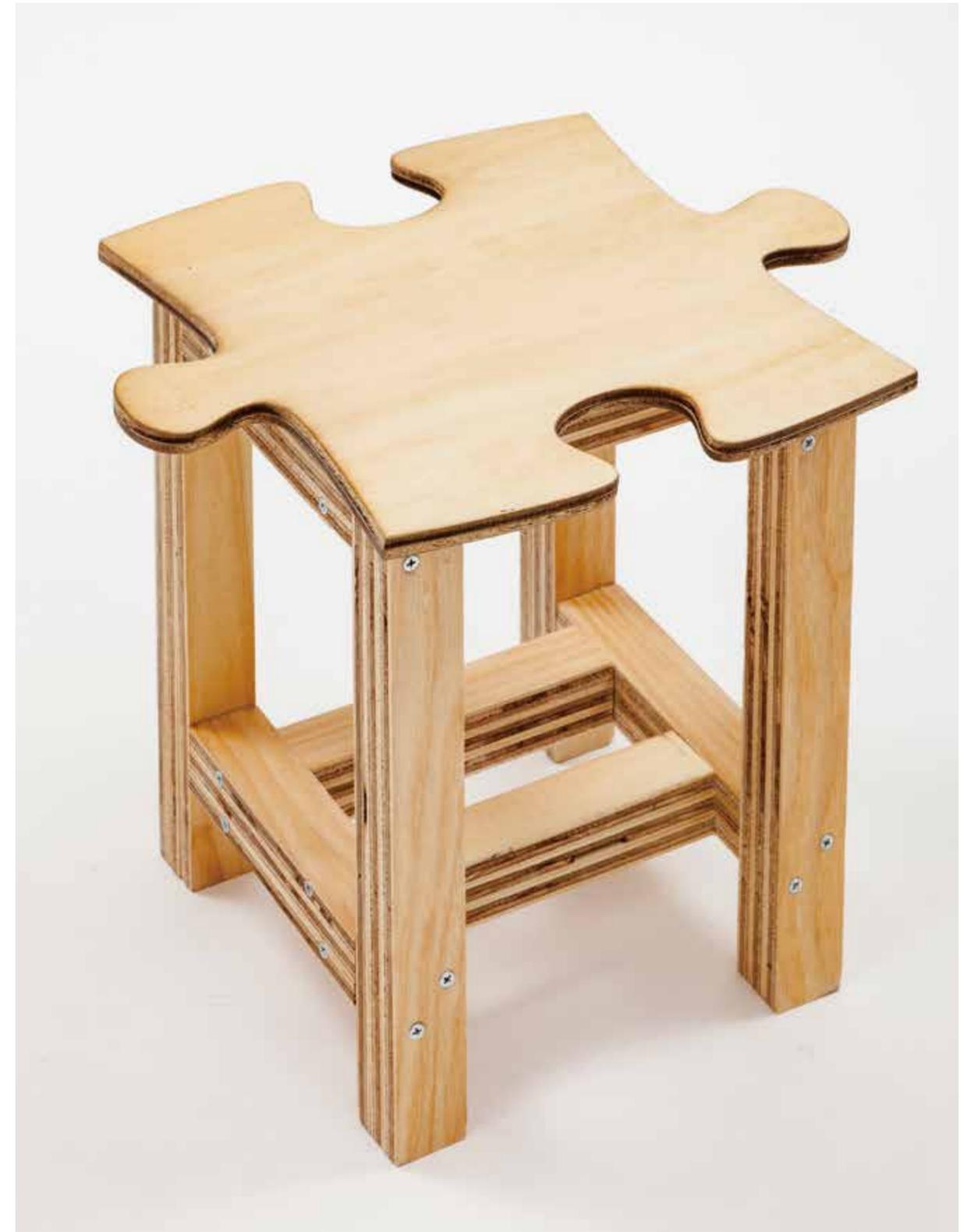
- 制作日数：およそ15日
- 制作費用：およそ10,000円（全6脚）

この椅子は座面がパズル型になっています。一脚で使用することもでき、複数つなぎ合わせることもできます。つなぎ方も色々あるので、場面に合わせて使うことができます。また、つなぎ方を工夫することで、小さい子どもの教材としても使用できると考えました。友達同士で楽しく使いながら、思考力・創造力の向上が期待できると思います。

工夫した点は、椅子の高さを低くしたことです。僕たちが座ると少し低すぎると感じますが、4歳から6歳ぐらいの子どもが大人の手を借りなくても自分で座れる高さにしました。

私たちは、文化祭ものづくりフェスティバルで木材を使ったものを作ることになりました。その際に建築科の先生の提案により、その作品を合板コンペに応募することにしました。クラスで協力して制作するために、作業を振り分けて班を作りました。授業や放課後の部活動がある中で、限られた時間しかありませんでしたが、建築科の先生にたくさん協力してもらい作り上げることができました。

苦労した部分はたくさんあります。合板を使うことで、脚部分の材料を自分たちで作らなければなりません。圧着させて大きさをそろえて切断するところまではスムーズに進めることができました。組み立ての際に、ビスを打ち込むと圧着部分に入ってしまうとたくさん割れてしまいました。慣れない作業で失敗もしましたが、みんなで協力し6脚完成させることができました。



### 審査委員からのコメント

座面をジグソーパズルにしてつなげていくアイデアを、丁寧な加工技術で実現した作品です。デザインの楽しさだけでなく、人と人とのつながりを感じさせるところに強く惹かれました。

## 荷moツリー

高橋 まり

- 使用した合板の種類と厚さ：ラワン合板3mm 白ラワン合板3mm
- 製作日数：およそ15日
- 製作費用：およそ3,500円

木から作られた合板をもう一度自然の木のように見せられないだろうか…?という考えから生まれた作品。「荷moツリー」

木が森で生き生きと成長している様子をイメージしています。玄関に乱雑に置かれているラケットやボールなどの遊び道具を掛けて収納する家具として使用します。

合板のしなやかに曲がる自由さを生かし、曲げ木加工を施しました。型をつくり、一枚一枚滑らかに湾曲させ、複数枚を積層することで、断面を美しく魅せ、あらゆる方向からの力に対して、高い強さを発揮できるようにしました。

葉の形をした土台には、たくさん荷物を掛けても耐えられるように鉄板をいれて安定させています。大きな作品ですが、圧迫感を感じさせないように、優しい色合いが特徴の白ラワン材を選びました。

「ただいま」とドアを開けると、「おかえり」と言わんばかりに真っ先に出迎えてくれる「荷moツリー」。これからは家族の一員として私たちの成長をいつまでも見届けてくれることでしょう。



### 審査委員からのコメント

合板の持つしなやかさがシンプルにしかもきれいに表現されている作品でした。実際に帽子や上着をかけてみたくになりました。

# 大好木ベンチ

明石 隼人

- 使用した合板の種類と厚さ：針葉樹構造用合板12mm厚 針葉樹型枠塗装合板12mm厚
- 制作日数：およそ10日
- 制作費用：およそ1,800円

僕たちの中学校では、「総合的な学習の時間」の授業で、グループに分かれて、社会貢献活動を行っています。僕たち（明石隼人、小銀拓希、坂本源、安本聡太）のグループでは、木材のよさやその利用の意義を広く知ってもらうために、公共施設に木製ベンチを置くことを考え、まず身近な小学校に設置することを計画しました。低学年教室前の廊下にベンチを置くことで、憩いの場となり、休憩時間に会話がはずむようになることを狙っています。木材で作ることで、木に親しみをもってもらえるとも思います。

小学生が使うベンチなので、丈夫なものにしなければなりません。中学校1年生のときに、技術・家庭（技術分野）の授業で、材料の特徴や製作品を丈夫にするための構造について学習したことをもとに、材料の使い方や組み合わせを工夫したり、身近にある頑丈な構造である鉄骨の構造物を真似たりして、合板で作れば、より丈夫になると考えました。座りやすく、立ちやすい構造になるように、段ボールで試作を繰り返し、脚の組み合わせ方も工夫しました。

また、2つのベンチの真ん中を丁番で繋いで、場面に応じて形を変えられるようにしました。ベンチを一直線に組めば、読書などを楽しむには最適です。また、L字に組めば、向かい合って話も出来るし、より児童同士の距離も縮まっていいなと考えました。



## 審査委員からのコメント

合板の丈夫さをシンプルに表している作品である。二つのベンチを丁番でつないで、大きく一つにしたり、直線やL字にして角度を変えることによって、生徒たちのコミュニケーションの間隔を変えられるという工夫があり、低学年に対する気づきを感じられる。

# 海の上の木

堺 美月

- 使用した合板の種類と厚さ：普通合板2.5mm
- 製作日数：およそ4日
- 制作費用：およそ1,000円

海の上のたった一本の木。となりのトトロに出てくる神社の大きな木の周りは、昔は海で、その木が家になっています。ジブリが好きな私は、ジブリの世界で暮らしてみたいと思う夢があるので、この作品に取り組んでみました。

部屋の中には、ベッド・テーブル・イス・テレビ・ソファーがあって、向こうの島に渡る橋は、千と千尋の神隠しをイメージして作ってみました。あと、木の葉っぱには不思議な力があり、その力で部屋の中を明るく照らしているのです。そして葉っぱはあちこちに落ちています。



## 審査委員からのコメント

海の上にツリーハウスといった大人では思いつかないような夢のある素敵な作品でした。

## 努力賞

# みんなでつくろう・すべろう・かたづけよう!! ～幼児用組み立て滑り台～

柳原 みず季 田中 若葉 遠藤 遥

- 使用した合板の種類と厚さ：シナ共芯合板15mm
- 制作日数：およそ15日
- 制作費用：およそ20,000円

現在、保育施設の待機児童が多いことが社会問題となっています。保育施設の建設を急いでいるものの、近隣住民が騒音を訴え、建設が中止または延期されることがあります。このような中でも幼児が思いっきり遊べるように、室内で使える木育遊具を合板一枚で作りたいと思いました。

この作品で工夫したところは2つあります。

一つ目は、幼児の興味を引き、幼児が自ら遊びたいと思わせるように、合板の特徴である、層になっている側面を生かした縞模様と市松模様を取り入れたところです。しかし、この模様作りは、決して簡単なものではなく、採寸した合板を細い棒状にカットし、つなぎ合わせ、縞模様の合板に加工するという気が遠くなるような作業でした。

二つ目は、室内で遊べる組み立て式の滑り台という点です。そうすることによって、大きい騒音を出す心配や組み立て式なので多くの収納スペースを確保する心配がありません。またそれだけでなく、幼児が自ら組み立てることで創造性を育成でき、室内で楽しく遊ぶことができます。



### 審査委員からのコメント

大人でも子供でも組み立てやすく、見た目(デザイン)も斬新です。木口のあらかわしとして、デザインされていて、商品化できたら欲しいです。

幼児と一緒に組み立てられ、片付けもできる点と合板の積層部分をデザインとして使っている点も素敵だと思いました。

## 努力賞

# 面と層

染谷 玲生

- 制作日数：およそ5日
- 制作費用：およそ20,000円

ものづくりとは時代と場所の生み出した結晶である。その時代に求められた機能の為の形態、その場所で手に入れることができる（地産に限る訳ではない）材料によって「もの」は作られる。合板のものづくりを考える上でもこの前提は揺るぐことはない。19世紀の機械化に伴って合板は安価な建築資材として世界で利用されるようになった。現代において合板を使う場合そのユニバーサルな背景に則って作られるべきである。

そこで私は現代の象徴としての椅子をデザインしようと試み、合板の美しい面と層を生かした椅子の提案をする。合板の魅力を考えたときに大きく2つの要素があるように私は考える。まず一つに、どこまでも続くような一つなぎの面と、二つ目にそれらが幾重にも重ねられることで現れる層状の小口である。板を面としてだけ使い箱状に作るでもなく、板を重ね合わせるだけで形を作るのでもない、その両方の操作が調和したものを目指した。

そもそも椅子を構成する要素に背面・座面・脚の三つの要素がある。それぞれは合板の装飾性の一つである面を見せる『背面』・面と層を見せながら背面と脚とのジョイントをカバーする『座面』・合板の装飾性のもう一つである小口のみによって構成された『脚』として振る舞う。古来より椅子の背面や脚は王座に見られるような装飾性を帯びる傾向にあり、逆に座面は機能的だ。合板の持つ装飾性のみで個々人の恣意的な操作はせず生成可能な椅子である。



### 審査委員からのコメント

簡素な形、圧倒的な質量、そして合板の素材感一面と層が見る者にさまざまな「なぜ」を問いかけます。単純に見えて緻密に設計された接合、荒々しささえ感じさせる仕上がりに、作者の強い主張、批判的な思いを感じました。アートとして高く評価されるべき作品だと思います。

## 努力賞

# ベニッキオ

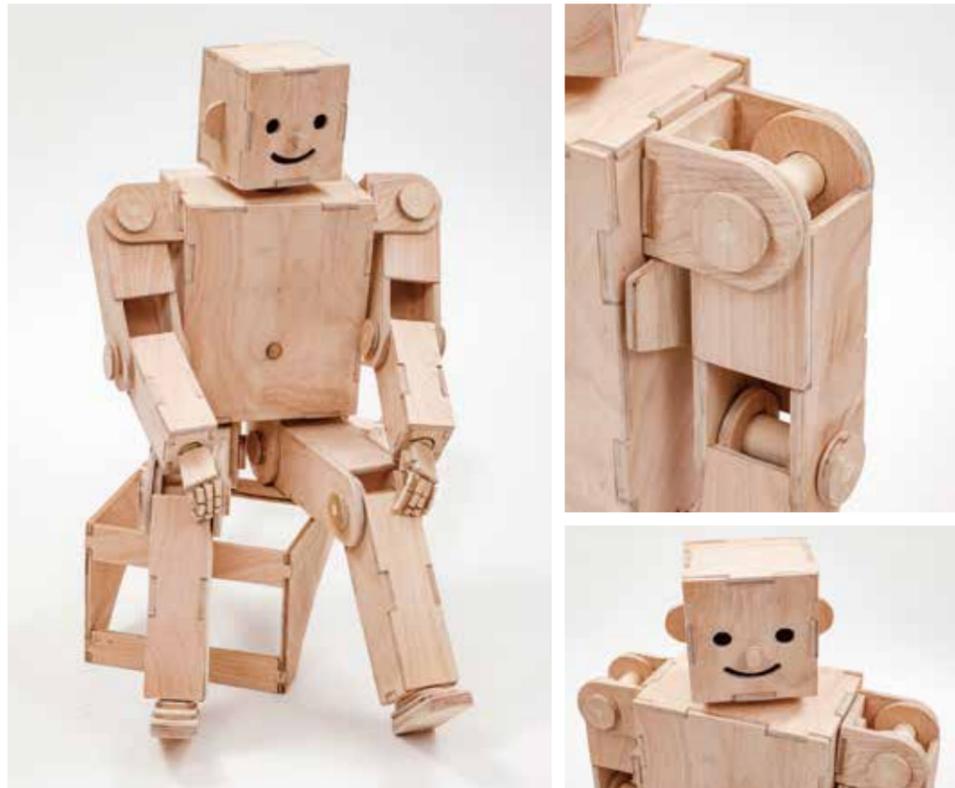
岩本 玲奈

- 使用した合板の種類と厚さ：ラワン合板・9mm
- 制作日数：およそ2週間
- 制作費用：およそ8,000円
- 使用した道具：ジグソー、ベルトサンダー、ハンドドリル
- 苦労した点：金具を使わない関節構造や強度を上げるための  
はめあいの設計・試作、手作業での190以上のパーツの切り出し

合板一枚で等身大サイズのものを作ってみよう!と思った時、そもそもヒトを作ったらどのくらいの大きさに出来るのかが気になり、木のヒト…童話「ピノッキオ」にあやかって、ベニヤ合板の「ベニッキオ」を考えてみました。

ヒトなら実際に腕などが動かせる方が楽しいと思い、各関節部に軸を付けました。指も片面に布を貼ることで1関節ずつ動かすことが出来ます。ただし不自然に動きすぎないように首と足首にはストッパーを設けており、また細い部品や力のかかる部品は強度が出るよう木目方向にも注意しました。普段は合板の余白で作ったスタンドに立たせておけば、安定した状態で飾っておけます。

合板1枚を無駄なく使い切り、かつバランス良く仕上げる点に特に注力しました。ちなみにこだわりは、ベニヤの節を使ったおへそです。



### 審査委員からのコメント

作者の作品に対する思いや気持ちが伝わってきます。ここまで細やかにモノを作り、木の良さを伝えようとしているのがわかって、思わず笑顔になりました。プラスチックまみれのロボットよりこのようなモノがもっと世の中で活躍して欲しいです。ありがとうございました。

合板1枚で人型ロボットを作りたいとのコンセプトで作られた傑作である。関節部分がうまく加工されており、座ったり自立して立つこともできるようになっている。また、指も曲がるようになっているなど努力の跡が随所に見られる。

努力賞

## 軟帯リュック

山口 泰成

- 制作日数：およそ2週間
- 制作費用：およそ500円

私は自分の技量を上げるためにこの合板コンペに参加することを決めました。このリュックサックは合板の強度・耐久性に注意して考え出しました。

合板1枚という制限の中で、できるだけ合板の量を少なくするために、短冊状にすることで大きいものを作れるようにしました。

合板だけではものがすり抜けてしまうため、中に不織布などの袋を入れることで、小さなものでも落ちないようにしました。糸を使うというところで、本来、木にはない柔軟性に富んでいます。また、合板と糸といった簡単な材料のため、誰でも作れるようになっています。

道具は学校で使っている、卓上のこぎり、電動やすりなどを用いて作りました。この作品は、2週間という短い間で完成させていて、合板のパーツが細かく一つ一つやすりがけが大変でした。また糸通しも大変だったので、何とか間にあったのでよかったです。

1人ではなかなか難しいこともありましたが周りの友人、家族、先生方の協力もあって何とか短い期間で完成できました。作っている最中に問題も多く起こってもう少し時間があればということもありましたが、自分なりに良い作品ができたと思います。



### 審査委員からのコメント

細かく加工した3mm合板を、綿糸で1枚1枚つないで出来上がったリュック。合板とは思えぬ軽さで、背負った感じも悪くありません。審査員が最も驚いた素晴らしい着想です。

努力賞

# Share Chair

青木 奏志

●コンセプト：1つの椅子に1人でも2人でも3人でも

椅子が足りなくて1人だけ座れない状況ってありますよね。  
そんな状況を改善するために制作した椅子です。

1つの椅子が縦に3等分に分かれて、シェアして2人でも3人でも座ることが可能です。

パーツをシンプルにして加工しやすくさせ、1枚の合板から3脚作れる生産性や、全体的にまとまったデザイン性、1つ1つの椅子は細くて心細く、心配になるかと思いますが、しっかり座れて椅子としての役割を果たしています。



## 審査委員からのコメント

一脚のイスを3脚に分離し、他者と分かち合う。人間関係が希薄な現代社会をシニカルに表現するかのようユニークなコンセプトが高く評価されました。

# フォトグラフ



林野庁挨拶



公益財団法人 PHOENIX 理事長挨拶



公益社団法人日本木材加工技術協会会長挨拶



日本合板工業組合連合会会長挨拶



審査委員







## ドゥーパ!

2019年2月号 (第128号)

### 合板1枚の 可能性を 解き放て!

「全国合板1枚作品コンペ」は3×6 (サブワ:1820×910mm)サイズの合板1枚を使って、合板の特性をいかした作品を提案する、日本で唯一の合板木工作品のコンテストだ。応募ルールは単純明快。使用サイズの合板が3×6サイズに収まれば、種々の種類の合板を使用可能で、金具類は自由に使うOK。2年に一度行なわれるこのコンペの第5回審査会が、去る2018年10月末に行なわれ、20作品が入賞を果たした。ここに紹介した作品はその入賞作品と憧れも入選を逃した応募作品の一部だ。

さて、読者諸氏はここに紹介したエッセイあふれる作品を見て、何を感じたろう。「たった1枚の合板でこんな作品が作れるのか」とその秘められた可能性に創作意欲をくすぐられたのでは? 普段、壁や屋根の下地材など、単なる建材としてしか意識していなかった合板が作り手の感性と発想によって、驚くほどスタイリッシュな家に生まれ変わっているさまに、筆者も大きく刺激を受けた。

合板断面の積層構造をいかしたものの、滑らかな曲げやすさをいかしたのも、パズルのように幾何学的に材料を切り出したもの……それぞれに製作者ならではの着眼点が見え隠れするもの面白い。まさに十人十色。多様な加工を受け入れる合板のポテンシャルを感じずにはいられない。

安価で入手しやすい材料で、いかにスタイリッシュで機能的な作品を作るか。「合板木工」は、僕たちにまた新しいDIYの魅力を与えてくれる。



作品名  
「江戸型山車」  
西澤直斗さん(18歳)作

精緻な構造の山車を合板で再現した力作。山車ならではの細かな装飾はもろもろ、自分(はこ)とい呼ばれる固い「箱」が上下するからくりで再現。完成度の高さから、公認社員田島 日本木材加工技術協会会長賞を受賞した。



作品名  
「再生」  
長谷川龍人さん(35歳)作

合板の積層構造を最大限に利用した合板オブジェ。モーターで回転する。複数の合板を組み重ね、削り出すことで造形している。そのアーティストワークス作家から、見事「最優秀賞(デザイン)」賞を受賞した。



作品名  
「折り畳み椅子」  
山下直樹さん(18歳)作

座面と背板に「U」の字に目ざましテープ、切欠を入れた合板を組み合わせ、それぞれを軸とすることで、折りたたみ機構を実現。持ち運び簡単で省スペース。最優秀賞を受賞。



作品名  
「腰が痛い母のための椅子」  
長南あずささん(31歳)作

「合板1枚・作品コンペ」発祥の地、島根県「東洋製材」が、合板の特性を活かして、腰に優しい椅子を開発。そのコンセプトを踏襲して、合板1枚で実現。持ち運び簡単で省スペース。最優秀賞を受賞。



作品名  
「バコ」  
岸本大河さん(21歳)作

一見、ボックスのテーブルだが、実はこのテーブルの裏面が、いわゆる「バコ」のようになっている。各パーツは切り易い合板をすべて「箱」で組み立てられているので、組み立てや解体が簡単。日本合板工業組合会長賞を受賞。



作品名  
「C&Cなイス  
(conical and colorful chair)」  
河合慈英さん(14歳)作

合板を円錐状に積み重ねることにより、まるで卵のような形を表現。それをさらに色を塗って、C&Cなイス(Conical and colorful)とした。完成した作品は、山手区にある「山下直樹 木工」の展示場にて展示されている。



作品名  
「合板スーツケース」  
山口泰成さん(16歳)作

合板を縦向きにカットし、コーナー部分を削り、その隙間にスリットを設け、折り上げたリュックバッグ。内部に不織布で仕立てたポケットを入れて使用する。名前のおしゃれなデザインと、見た目以上に丈夫な作りが、最優秀賞を受賞。



作品名  
「Increase Chair」  
青沼陽輝さん(17歳)作

「合板1枚・作品コンペ」発祥の地、島根県「東洋製材」が、合板の特性を活かして、腰に優しい椅子を開発。そのコンセプトを踏襲して、合板1枚で実現。持ち運び簡単で省スペース。最優秀賞を受賞。



作品名  
「Play Picnics with Plywood!!」  
高木博之さん(38歳)作

築ある最優秀賞(林野庁長官賞一般の部)を受賞したのは、シンプルでニルナルテーブルセット、テーブル天板、スツール座面には2枚の板を中央を軸に、軸には3枚の板を前後に配置。天板、座面の裏面に滑り止めを貼ることで、そのスツールと天板を組み合わせると、テーブルの天板が傾くことなく、今年も72作品の「を」作ることも可能だ。



作品名  
「C&Cなイス  
(conical and colorful chair)」  
河合慈英さん(14歳)作

合板を円錐状に積み重ねることにより、まるで卵のような形を表現。それをさらに色を塗って、C&Cなイス(Conical and colorful)とした。完成した作品は、山手区にある「山下直樹 木工」の展示場にて展示されている。



作品名  
「合板スーツケース」  
山口泰成さん(16歳)作

合板を縦向きにカットし、コーナー部分を削り、その隙間にスリットを設け、折り上げたリュックバッグ。内部に不織布で仕立てたポケットを入れて使用する。名前のおしゃれなデザインと、見た目以上に丈夫な作りが、最優秀賞を受賞。



作品名  
「Increase Chair」  
青沼陽輝さん(17歳)作

「合板1枚・作品コンペ」発祥の地、島根県「東洋製材」が、合板の特性を活かして、腰に優しい椅子を開発。そのコンセプトを踏襲して、合板1枚で実現。持ち運び簡単で省スペース。最優秀賞を受賞。

### DIY SPECIAL TOPIC

第5回全国合板1枚作品コンペ、作品リポート  
3×6合板から生まれるユニークで  
クリエイティブな木工作品が「一挙集合」!

084

## 日刊木材新聞

2018年12月13日付 5面

### 優秀な作品の作者を表彰

「第5回全国合板1枚・作品コンペ」表彰式が、12月13日(日)東京都港区有明の「有明コロシアム」で開催された。表彰式には、審査員長を務めた安藤直人氏(東京大学名誉教授)をはじめ、審査員、各作品の作者、関係者約100人が参加した。表彰式では、最優秀賞を受賞した高木博之さん(38歳)をはじめ、優秀賞を受賞した河合慈英さん(14歳)ら19名が表彰された。



審査委員長の安藤直人氏(東京大学名誉教授)は、最優秀賞を受賞した高木博之さん(38歳)に賞状を授け、激励の言葉を述べた。高木さんは、「このコンペを通じて、合板の可能性を改めて認識することができた。今後も、合板の魅力を最大限に引き出す作品を作りたい」と話した。

審査員長を務めた安藤直人氏は、「合板は、木材の特性を活かした、ユニークな作品が生まれる。今後も、合板の魅力を最大限に引き出す作品を作りたい」と話した。

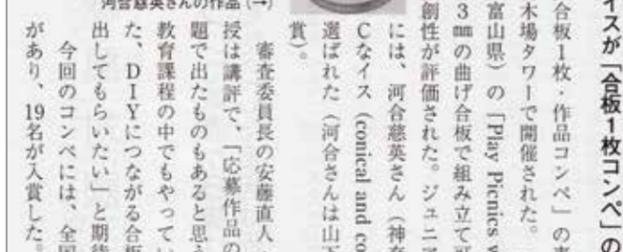
最優秀賞を受賞した高木博之さん(38歳)は、「このコンペを通じて、合板の可能性を改めて認識することができた。今後も、合板の魅力を最大限に引き出す作品を作りたい」と話した。

## 林政ニュース

2018年12月19日 (第595号)

### ニュース・フラッシュ

◆独創的な2つのイスが「合板1枚コンペ」の最優秀賞に輝く  
5回目となる「全国合板1枚・作品コンペ」の表彰式が、12月2日に東京都江東区の新木場タワーで開催された。一般の部の最優秀賞は、高木博之さん(38歳)の「Play Picnics with Plywood II」が受賞。21mmの合板と3mmの曲げ合板で組み立て可能なテーブルとスツールをつくらせた独創性が評価された。ジュニアの部の最優秀賞には、河合慈英さん(14歳)の「C&Cなイス (conical and colorful chair)」が選ばれた(河合さんは山下直樹木工賞も受賞)。



審査委員長の安藤直人氏(東京大学名誉教授)は、最優秀賞を受賞した高木博之さん(38歳)に賞状を授け、激励の言葉を述べた。高木さんは、「このコンペを通じて、合板の可能性を改めて認識することができた。今後も、合板の魅力を最大限に引き出す作品を作りたい」と話した。

審査員長を務めた安藤直人氏は、「合板は、木材の特性を活かした、ユニークな作品が生まれる。今後も、合板の魅力を最大限に引き出す作品を作りたい」と話した。

最優秀賞を受賞した高木博之さん(38歳)は、「このコンペを通じて、合板の可能性を改めて認識することができた。今後も、合板の魅力を最大限に引き出す作品を作りたい」と話した。

# コンペ記録

## 第1回 (2010年)

受賞名	作品名	入賞者名	都道府県	年齢	共同制作者
<b>ジュニアの部</b>					
林野庁長官賞 (最優秀賞)	ぐるぐるランプシェード	後藤康明	島根県	14	
優秀賞	puzzle	小森明日香	大阪府	16	
優秀賞	折りたたみ椅子??	鈴木さえ	東京都	18	
優秀賞	傾きマガジンラック	長澤健	島根県	15	
審査委員会特別賞	マトリョシカ	菅原香織	大阪府	17	
審査委員会特別賞	大きくわがた	田村和也	岡山県	10	田村万知子
特別賞	木製シーラカンス	川部知也	島根県	10	
特別賞	ハムスターテーブル	河合月	島根県	9	
特別賞	サクライス	濱澤瞳子	大阪府	17	
特別賞	マガジンラック	吉岡朱音	島根県	11	
特別賞	立っても座っても使える台	鷲見玲香	岐阜県	11	
特別賞	うらがえせばつくえ	井上衛	島根県	11	
特別賞	テーブルとイス	野津由起絵	島根県	11	
特別賞	ドラえもんチェア	南山友花	島根県	10	

## 一般の部

林野庁長官賞 (最優秀賞)	Doze board	寺島徹	東京都	46	福地誠司、岡村夏子
優秀賞	ばねるいす	赤松明	埼玉県	59	西田雄紀
優秀賞	ダストボックス	門田祥吾	愛知県	24	畑山、平田
優秀賞	三段整理箱	管田英武	島根県	68	
特別賞	花器	多久和章吉	島根県	69	
特別賞	テーブルイスシステム	八鍬明弘	北海道	49	松本久美子
特別賞	行灯	星野武敏	島根県	72	
特別賞	FLOWER TABLE	藪田忠之	大阪府	35	湯村啓、橋詰香奈、酒井マンボウ、ゴリラゲリラ
特別賞	両面 (折畳式) 間仕切棚	福代明義	島根県	77	
特別賞	花台つき八角椅子	長澤郁夫	島根県	51	
特別賞	OH chair	中西要成	北海道	63	
特別賞	HANGER	藪田忠之	大阪府	35	湯村啓、橋詰香奈、酒井マンボウ、ゴリラゲリラ
特別賞	合板テーブル漆仕上げ	久津美卓	新潟県	29	
特別賞	レーシングカー	奥村卓三	島根県	68	

## 第2回 (2012年)

受賞名	作品名	入賞者名	都道府県	年齢	共同制作者
<b>ジュニアの部</b>					
最優秀賞 (林野庁長官賞)	Curve shelf	小林美蘭	神奈川県	19	
公益社団法人日本木材加工技術協会会長賞	レンタル KASAYA	原裕祐	島根県	17	成相哲哉
日本合板工業組合連合会会長賞	ドーム型スツール	石曾根斐子	東京都	17	
「倉澤 實」記念賞	ドーム型スツール	石曾根斐子	東京都	17	
優秀賞	格子イス	三浦伸晃	東京都	15	
優秀賞	組木ランプ	川部知也	島根県	12	
特別賞	エッジチェア	高橋祐人	東京都	19	小西均
特別賞	夏の木漏れ日	島上直哉	東京都	18	
審査委員特別賞	きになるき	高橋椿太郎	島根県	11	高橋恭子
審査委員特別賞	真木剣	安東大祐	東京都	16	
審査委員特別賞	日本列島パズル付き整理箱	石川達也	愛知県	18	
審査委員特別賞	網代椅子	大和田智子	東京都	16	
審査委員特別賞	鱧の親子	榊原拓也	愛知県	19	
審査委員特別賞	さんりんしゃ	小林遼大	東京都	17	
<b>一般の部</b>					
最優秀賞 (林野庁長官賞)	積層スツール	野坂季生	北海道	20	
公益社団法人日本木材加工技術協会会長賞	KomoRebi Rack	岩下裕樹	埼玉県	22	
日本合板工業組合連合会会長賞	36	塩谷美夏	沖縄県	23	
「倉澤 實」記念賞	PLY TREE (プライツリー)	吉田優	静岡県	69	渡辺俊介
優秀賞	pa-stool	成田歩未	北海道	29	
優秀賞	スカイ・スツール	管田英武	島根県	70	
特別賞	楽棚	門田祥吾	愛知県	26	井桁勝人、木林昭夫
特別賞	木馬	花田修三	島根県	69	
審査委員特別賞	ゼブラ スツール	中西要成	北海道	65	
審査委員特別賞	Wave Chair	市場純生	神奈川県	50	
審査委員特別賞	鉢カバー	奥村卓三	島根県	70	
審査委員特別賞	コの字ラック	清水良太	埼玉県	21	
審査委員特別賞	つるのテーブル	三輪大吾	島根県	20	浅原一哉
審査委員特別賞	合板ドリームランド	大野公輔	愛知県	20	
審査委員特別賞	八岐大蛇	片山滋文	愛知県	20	

### 第3回 (2014年)

受賞名	作品名	入賞者名	都道府県	年齢	共同制作者
最優秀賞 (林野庁長官賞)	花は咲く	奥村 卓三	島根県	72	
公益社団法人日本木材加工技術協会会長賞	水槽♪	門田 祥吾	愛知県	28	木林昭夫、井桁勝人
日本合板工業組合連合会会長賞	アーチチェア	吉原 直樹	静岡県	16	
NPO法人 木材・合板博物館理事長賞	TDB-50	砺波 浩二	富山県	54	
「合板1枚・作品コンペ発祥の地 島根」賞	板月 (はんげつ)	横尾 かな	東京都	18	
「倉澤 實 デザイン」賞	水槽♪	門田 祥吾	愛知県	28	木林昭夫、井桁勝人
「山下晃功 木育」賞	附小看板 (校長室、図書館、夢が広がる図工室)	島根大学教育学部附属小学校 ちどり造形クラブ	島根県	9~12	松村ひびろ、葛上智暁、高橋祐衣、山口善大、伊達優馬、南山琳咲、山辺咲希穂、安部聡美、吉田百花、野坂育見、海出 遥、長谷川もも、安藤龍哉
優秀賞	ZENI CUBE	白鳥 孝	北海道	45	北海道小樽工業高等学校建設科
優秀賞	星型テーブル&イス	祖父江 事志	愛知県	20	
特別賞	15匹猫	厚地 紗有加	愛知県	20	
特別賞	グレープの壁飾り	管田 英武	島根県	72	
審査委員特別賞	仲良し四人組のための勉強机 ~世界は支えあい大切です!~	内藤 茂樹	兵庫県	40	
審査委員特別賞	lotus lamp	中 太郎	東京都	24	
審査委員特別賞	a ツール	田口 悠人	東京都	18	
審査委員特別賞	曲下駄	荒井 佑一	東京都	18	

受賞名	作品名	入賞者名	都道府県・所属	年齢
最優秀賞 (林野庁長官賞:一般の部)	バックロード ホーン 爆苦労ど horn II	砺波 浩二	富山県	56
最優秀賞 (林野庁長官賞:ジュニアの部)	木玉	佐藤 那津	神奈川県・関東学院 中学校高等学校	14
公益社団法人日本木材加工技術協会会長賞	ストーブ型ランプ	河村 雅矢	愛知県・愛知県立 名古屋聾学校産業工芸科	20
日本合板工業組合連合会会長賞	炎のツール	管田 英武	島根県	74
公益財団法人 PHOENIX 木材・合板博物館理事長賞	フリーリスツール	中西 要成	北海道	69
「合板1枚・作品コンペ発祥の地 島根」賞	key box	及川 玲可	東京都・東京都立工芸高等学校	17
「倉澤 實 デザイン」賞	炎のツール	管田 英武	島根県	74

受賞名	作品名	入賞者名	都道府県・所属	年齢
「山下晃功 木育」賞 (ジュニアの部)	おうちの宝物入れ	森脇 紗代	島根県・島根大学教育学部 附属小学校	10
「山下晃功 木育」賞 (ジュニアの部)	和	森谷 聡	神奈川県・横浜市立岡津中学校	15
優秀賞	おぼけパズル	井上 幸人	東京都	34
優秀賞	知恵の玉	木林 昭夫	愛知県・株式会社南製作所	82
特別賞	道後温泉駅と坊っちゃん列車	鈴木 豪	愛知県・愛知県立 名古屋聾学校産業工芸科	20
特別賞	江戸神輿	西澤 直斗	東京都・東京都立工芸高等学校	16
合成樹脂工業会 接着剤部会賞	合板でオシャレ!	糸のこキャット	愛知県	50
奨励賞	弟のための家	山谷 翔太	神奈川県・横浜市立岡津中学校	13
奨励賞	木製サッカーゲーム	石田 凱風	愛知県・愛知県立 名古屋聾学校産業工芸科	19
奨励賞	ベニヤーチェア	高橋 裕哉	東京都・東京都立工芸高等学校	17
奨励賞	PETable / ペットブル (PETbottles x portable)	篠原 彩巴	東京都・東京都立工芸高等学校	17
奨励賞	光るぶどう	本間 琢也	東京都・東京学芸大学	21
奨励賞	やわらか木枕	三根 拓也	神奈川県・横浜国立大学大学院	24
努力賞	まあはす号~みんな笑顔になる~	学童・ 子ども教室 まあはす	神奈川県	6~8
努力賞	小物の家	島村かれん	島根県・島根大学教育学部 附属小学校	9
努力賞	ゴミ箱 (ティッシュを備えてる)	千葉 太元	島根県・島根大学教育学部 附属小学校	10
努力賞	エコバック	佐藤 渉	宮城県・仙台市立 仙台工業高等学校	17
努力賞	トランスフォーメーションバッグ	加藤 実桜	島根県・島根県立 出雲商業高等学校	17
努力賞	イス型スーツケース	宮下 凱充	神奈川県・神奈川県立 平塚工科高等学校	17
努力賞	スライドチェア	黒木 俊希	宮崎県・宮崎大学	18
審査委員特別賞	木の歯車	加賀谷 友冴	東京都・東京都立 田無工業高等学校	16
審査委員特別賞	水戸聾学校産業工芸科オリジナル・パズル	茨城県立 水戸聾学校 産業工芸科	茨城県・茨城県立 水戸聾学校産業工芸科	17~18
審査委員特別賞	ロールチェア	中上 貴也	島根県・島根大学	20
審査委員特別賞	サイドテーブルとツールのセット	長濱 萌菜	沖縄県・沖縄県立芸術大学	22
審査委員特別賞	癒しのローテーブルライト	吉野 倣尚	埼玉県	52
審査委員特別賞	Night Session	富岡 昭光	東京都	55

# 募集チラシ



## 地球環境のために、合板を使おう!

木質材料の代表格「合板」は21世紀の「環境新時代」にふさわしい、地球に優しく、持続可能な天然循環資源を原料にして製造されています。また、最新の木材加工技術により高い性能と品質を持ち、私たちの生活になくてはならない建築、生活資材でもあります。

この地球環境にも良い合板の強さ、美しさ、  
優しさ、面白さ、ユニークさ、繊細さなど  
多面的な合板の魅力を、みなさんの  
力によって引き出し  
ましょう!

# 第5回 全国合板1枚 作品コンペ

壁の中、屋根裏、床下などの裏方の木質建材として住まいの安全を支える合板。これを**家具、造形、美術・工芸**に活用した作品づくりを競うこのコンペも、第5回を迎えます。

このコンペで求められるのは、合板の**強さ、美しさ、優しさ、おもしろさ**をいかに表現するか、そして「合板1枚」をどのように活かすかです。小学生も、プロも、趣味で楽しむ方も、一切のハンデなし、合板の**新たな可能性、魅力を引き出す作品**を表彰します。多くの皆様からの作品の応募をお待ちしております。

**最優秀賞**  
林野庁長官賞：一般の部  
副賞 賞金**20万円**

**最優秀賞**  
林野庁長官賞：ジュニアの部  
副賞 賞金**8万円**  
(図書カード)

### 主催団体

公益社団法人 日本木材加工技術協会、日本合板工業組合連合会、公益財団法人PHOENIX(木材・合板博物館)、日本合板商業組合

### 協賛団体(予定)

一般財団法人 田部謝恩財団、合成樹脂工業協会 接着剤部会、一般社団法人 日本木工機械工業会、公益財団法人 日本合板検査会、国立大学法人 埼玉大学、東京合板工業組合、木育全国生産者協議会、学研パブリッシング刊「ドゥーバ!」編集部、株式会社日刊木材新聞社、海青社 他

### 後援団体(予定)

林野庁、埼玉県教育委員会(予定)、さいたま市教育委員会(予定)、一般社団法人 日本木材学会、日本産業技術教育学会木材加工分科会、日本木材育社年団体連合会、全日本中学校技術・家庭科研究会、公益社団法人 全国中学校産業教育教材振興協会、一般社団法人 日本DIY協会、全国高等学校建築教育連絡協議会、公益社団法人 全国工業高等学校長協会、一般社団法人 全国高等専門学校連合会、開隆堂出版株式会社、東京書籍株式会社、株式会社テクノ教育、埼玉新聞社(未定) 他

送付先 事務局 〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255  
埼玉大学教育学部生活創造講座技術分野 浅田 茂裕(あさだ しげひろ)  
電話・FAX 048-858-3229 E-mail go1compe@gmail.com

合板コンペ 検索  
http://gouhancompe.jp



## 第5回 全国合板1枚・作品コンペ

### 1 「合板1枚・作品コンペ」の開催趣旨

木質材料、木質建材の代表格「合板」が我が国に誕生して、1世紀余りになります。現在では、国内の多くの建築物には合板が使われていないものは無いといっても過言ではありません。そして、多くの合板は、住宅の構造材料のみならず内装材、家具材料として住まいの国民生活をしっかりと大きく支えてきています。しかし、こんなに身近に大量に使用され、住宅を支える重要な建築材料の合板であるにもかかわらず、その多くは壁の中、屋根裏、床下などで裏方として世の表舞台になかなか登場することがありません。そこで、この合板1枚・作品コンペでは、合板の魅力を目に見えぬ形で、全面的に活かした建築材料、家具材料、造形材料、ものづくり工作材料、美術・工芸材料、生活材料、教育文化材料など広範囲な分野で、一般生活者の皆様方からお知恵をいただき、よりよい合板の魅力を発掘してもらおうとするのが趣旨です。また、2012年に日本合板工業組合連合会及びNPO法人木材・合板博物館によって、日本で最初に合板製造が開始された11月3日が「合板の日」として制定されました。この「合板の日」制定の記念行事の重要な一つとして、合板の国民生活への必要性や重要性。さらには木質材料「合板」としての魅力の後世に引き継ぐことを目的に本コンペを実施することいたしました。今日、「合板」は「森林・林業基本計画」の目標達成や「東日本大震災の復興」に大きく貢献しています。そして、大気中のCO2の合板への固定による地球温暖化防止に貢献し、日本の森林・林業と山村の振興に大きな期待が寄せられているところです。さらには、合板素材の木材は、地球と人類に優しい「持続可能で再生可能な循環天然資源」でできております。この地球環境に良い合板の、強さ、美しさ、優しさ、おもしろさ、ユニークさ、繊細さなど多面的な合板の魅力を多くの国民の皆さんによって、引き出していただきたいのです。

### 2 作品募集部門

次の2部門で募集します。

- ①一般の部(高校生以上) ②ジュニアの部(小学生・中学生)

※高校生、高専生、大学生、特別支援学校生などはそれぞれの教育課程の特性を配慮して審査します。

### 3 審査基準

本コンペの趣旨を踏まえ、以下の項目を考慮して審査します。

- ①合板の良さ、美しさ、おもしろさなどが活かされているもの
- ②合板1枚を有効に利用しているもの
- ③合板の利用について普及効果があるもの
- ④合板の新たな用途開拓を見出したもの
- ⑤合板の強度特性、物理的特性を活かしたものの

### 4 応募条件

上記の「審査基準」や下記の「作品規格」に従って、制作したオリジナルで未発表のものであること。著作権、工業所有権を侵害すると判断されたものは除外されます。応募は個人又はグループのいずれでも可能です。

#### 【作品規格】

- ①合板1枚とは、板厚90cm×板の長さ180cmの3\*6(サブロク)サイズ1枚の面積のことです。板厚は自由です。使用合板は1枚以下でも結構です。ただし、各種の板厚の合板を組み合わせて使用する場合は、合計の面積が90cm×180cm=16,200cm<sup>2</sup>になるように使用してください。
- ②家具金具(丁番、取手、キャッチャーなど)、補強金具、接合金具などは自由に使用できます。
- ③作品に色を塗ったり、絵を描いたり、彫刻、布貼りなどの表面装飾を行うこともできます。
- ④特殊な合板を製造して使用する場合は、特殊な規格の合板を使用する場合は事務局にお問い合わせください。

#### <留意事項>

すべての応募作品の権利(著作権などは)制作者に帰属します。しかし、入賞、出展作品の展示及び作品集などの印刷物への使用上の権利は主催者に帰属します。作品の返却は送料など自己負担で行っていただきます。上位入賞作品については、主催団体および関係団体による展示場やイベント会場などの作品紹介を目的として、寄贈をお願いする場合があります。

### 5 応募方法

応募は2段階に分けて行います。最初1次応募を書類でしていただき、その書類審査を行います。次に、1次応募で選ばれた作品について、2次応募を実物作品でしていただき、その実物作品の審査を行います。

1次応募期間:平成30年8月20日(月)~平成30年9月7日(金)必着  
(作品の書類のみをお送りください)

2次応募期間:平成30年9月25日(火)~平成30年10月5日(金)必着  
(作品の実物をお送りください)

#### (応募先及び方法)

ホームページ(<http://gouhancompe.jp/>)上から1次応募用紙をダウンロードし、応募用紙に、作品の設計図、作品の正面、側面、平面の3方向から撮影した写真、スケッチ(フリーハンドでも可)などで作品の寸法、構造、機能や特徴を記入したものを郵送にて下記の事務局まで締め切り日必着で送付してください。1次審査合格者の方は、2次審査を実物で行います。各自でダンボール箱などで梱包し、所定の用紙(1次審査合格者に合格通知とともに送付します)を貼り付けて、送料応募者負担で、締め切り日必着で事務局まで送付してください。また、お送りした宅急便伝票には作品の返送先の宛名、氏名などを記入して、作品と同時に送付してください。

### 6 審査結果発表

1次審査結果発表:平成30年9月14日(金)  
ホームページ(<http://gouhancompe.jp/>)上で発表します。  
また、1次審査合格者には、郵送でお知らせし、作品実物を2次応募期間中に事務局まで送ってください。

2次審査結果発表:平成30年10月26日(金)10時から  
ホームページ(<http://gouhancompe.jp/>)上で発表します。

### 7 表彰

表彰式は木材・合板博物館(東京・新木場)において平成30年12月2日(日)に行います。入賞作品を広く紹介させていただくために、表彰式と並行して入賞作品展示会を開催し、下記の期間に開催します。

日時 平成30年11月3日(土)~平成30年12月末

- 最優秀賞(林野庁長官賞一般の部) 副賞賞金20万円 1件
- 最優秀賞(林野庁長官賞ジュニアの部) 副賞賞金8万円(図書カード) 1件
- 公益社団法人 日本木材加工技術協会会長賞 副賞賞金7万円 1件
- 日本合板工業組合連合会会長賞 副賞賞金7万円 1件
- 公益財団法人PHOENIX木材・合板博物館理事長賞 副賞賞金7万円 1件
- 「合板1枚・作品コンペ発祥の地 島根」賞 副賞賞金7万円 1件
- 「倉澤 貴 デザイン」賞 副賞賞金5万円 1件
- 「山下見功 木育」賞(ジュニアの部) 副賞賞金3万円(図書カード) 2件
- 優秀賞 副賞賞金2万円 1件
- 奨励賞 副賞記念品 数件
- 努力賞 副賞記念品 数件
- プライグッド賞(仮称・新設) 副賞記念品 数件

※高校生(高専3年生以下を含む)以下が受賞した場合、現金ではなく同額の図書カードを贈呈します。小学生、中学生、高校生、高専生、大学生、特別支援学校生などはそれぞれの教育課程の特性を配慮して審査します。

### 8 送付先・事務局

〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255  
埼玉大学教育学部生活創造講座技術分野 浅田茂裕(あさだ しげひろ)  
電話・FAX 048-858-3229 E-mail go1compe@gmail.com

本報告書の雑誌記事は、許諾を得て掲載しております。関係各位に御礼申し上げます。

---

## 編集後記

第5回全国合板1枚・作品コンペ報告書を作成することが出来ました。

合板の美しさ、機能性を皆様に伝えることができれば幸いです。

最後になりましたが、編集にご協力頂きました皆様方に、厚く御礼申し上げます。

---

## 第5回全国合板1枚・作品コンペ報告書

2019年2月発行

編集  
東原貴志  
田中孝  
多田知子

発行人  
浅田茂裕